

金融政策よりも米景気動向が市場の関心事に



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米PCE物価指数はインフレ鈍化を示唆

米商務省が6月30日に発表した5月の米PCE物価指数は、前年同月比で3.8%の上昇（4月は同4.3%上昇）となり、エネルギーと食品を除くコア物価指数も同4.6%の上昇（4月は同4.7%上昇）となるなど、米インフレの伸びが鈍化しました（右上図）。

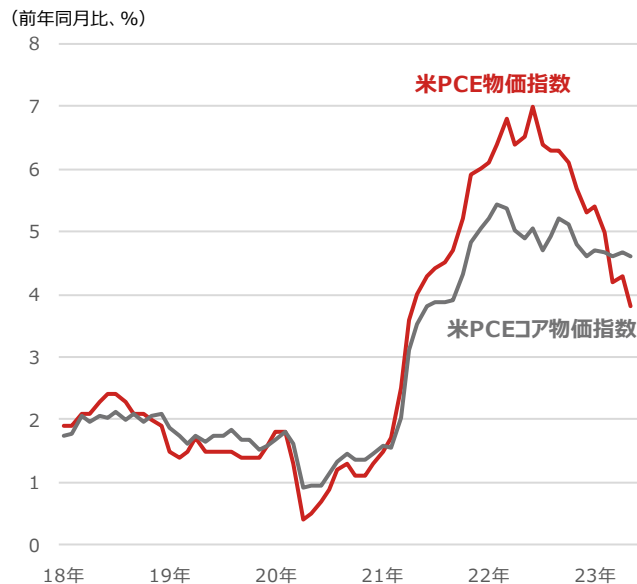
FRB（米連邦準備制度理事会）が金融政策を行なう上で重視している米PCEコア物価指数の伸びが高止まりしていることもあり、7月にFRBが利上げを再開するとの市場の見方に変化はありません。ただ最近では、FRBの高金利政策が続いたとしても、米経済がそれに耐えられる状況にあるとの観測が強まりつつあるなど、市場は金融政策よりも米景気動向への関心を強めているようです。

ポイント② 金融政策よりも米景気動向が焦点に

同日発表された6月の米シガン大学消費者マインド指数（確定値）は64.4と5月の59.2から上昇しました。米高金利政策が続くなかでも米景況感は堅調さを維持しています。30日の米国株市場ではハイテク株主体のNASDAQ100が1.6%高となり、米アップルが終値ベースで史上初となる時価総額3兆米ドル超えとなるなど、米景気の底堅さを背景に投資家のリスクテイク意欲は旺盛です。

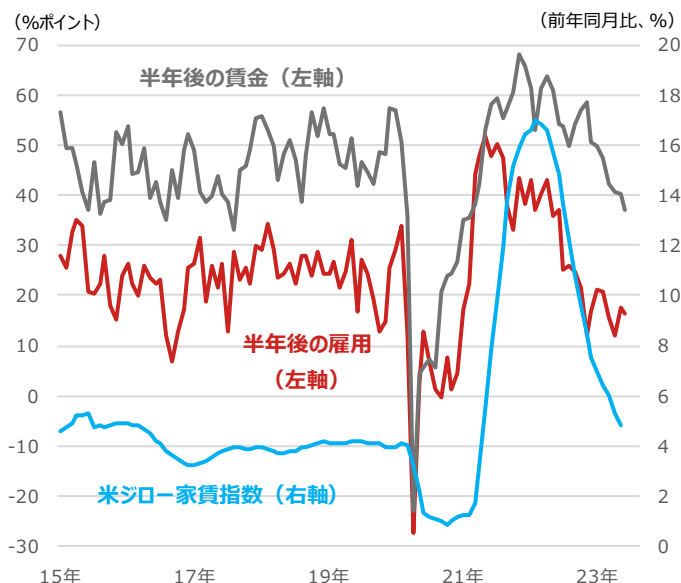
足元で米インフレ高止まりの主因である米サービス価格の伸び鈍化を示唆する指標が、雇用や賃金、米住宅家賃の分野で目立っており、米サービスインフレの上昇圧力は今後緩和に向かうとみられます（右下図）。米利上げがあと数回で打ち止めとなり、米景気の緩やかな成長も続くのであれば、米企業業績の回復への確度も高まるといえ、米国株を見直す動きは当面続きそうです。

米PCE（個人消費支出）物価指数とコア物価指数



期間：2018年1月～2023年5月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

NY連銀ビジネスリーダーサーベイ（雇用・賃金）と米ジロー家賃指数



期間：（NY連銀ビジネスリーダーサーベイ）2015年1月～2023年6月、月次
（米ジロー家賃指数）2015年1月～2023年5月、月次
・NY連銀ビジネスリーダーサーベイ（雇用・賃金）は拡大から縮小を差し引いた数値で、サービス企業の景況感を示す
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格の上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。